

4
5
6
7
8
9
3401
2
3
4
5
6
7
8
9
3501
2
3
4
5
6
7
8
9
3601
2
3
4
5

秘

石鹼輸入關稅調查報告書

臨時產業調查局
調查部第五班

依命 自康德二年十一月
至 至 十二月 哈爾濱、奉天へ出張シ石鹼輸入關稅ニ就キ調
査セシ報告書ナリ

康德三年三月

工商司工務科
伊地知 敏

G-27

目次

第一	概要
第二	生産狀況
第三	輸入狀況
第四	國內需要狀況
第五	生産原價
第六	原料關係
第七	國產品市價
第八	輸入品市價
第九	結論
附錄	關稅沿革表

日本ニ於ケル石鹼製造及輸出狀況

第一 概要

(1) 洗濯石鹼

本邦ニ於テ最モ早ク洗濯石鹼ノ製造起リタルハ哈爾濱及奉天ニシテ哈爾濱ニ於テハ民國一、二年頃（一九一一年頃）、奉天地方ニ於テハ民國五、六年頃ナリ。

最盛期ハ民國十二、三年頃ナリシカ其ノ後同業者ノ簇出ト一般經濟界不況ノ爲衰微ノ一途ヲ辿リツツアリタリ、然レトモ康德元年（一九一四年）ニ於テハ其ノ生産額ハ六〇萬貫（四五萬圓）位ナリシカ康德二年度ニ於テハ原料大豆油ノ値上リト日本ヨリノ安價品ノ輸入激増セル爲著シク採算關係惡化シ全工場ノ八割近クハ休業ノ狀態ナリ輸入ハ從來主トシテ日本及中華民國ヨリ爲サレタルカ本邦建國後關稅自主權ノ確立ニヨリ日本品ノ輸入壓倒的トナレリ、特ニ第一次關稅改正ニ依リ一擔四・七〇金單位ノ稅率ヨリ從價一〇％ニ引キ下ケラレテカラ日本品ノ輸入ハ大同元年ノ七九〇百斤ヨリ一躍

シテ大同二年ニハ一〇、五四二百斤トナレリ。
日本ニ於テハ最近硬化油會社カ積極的ニ石鹼製造ニ乗り出シ大量
生産ニヨリ生産原價ノ低減ヲ圖ルト共ニ廢液ヨリ「グリセリン」
ヲ抽出スル爲ニ洗濯石鹼ノ原價ヲ相當ニ引キ下ケ得ルニ至レリ。
本邦ニ於テハ大豆油價ノ騰貴ノ爲ニ日本ヨリ魚油ノ硬化油ヲ輸入
スルヲ以テ原料高ノ上ニ廢液ノ處理設備ナキ爲ニ日本ニ比シ生産
原價高シ。
奉天ノ一工場ニ於ケル生産原價ハ百斤十二圓二十錢乃至十三圓八
十錢見當ナルニ對シ日本品ノ奉天相場ハ百斤十一圓七十錢乃至十
三圓三十錢見當ニシテ本邦品ノ生産原價以下ナリ。
以上ノ如キ現狀ナルヲ以テ國內業者ヲ保護助長スルニハ現行稅率
ヲ從價二〇%位ニ引キ上クルト共ニ國內對策トシテハ企業ノ合同
ヲ圖リ、工場設備ヲ改善シ廢液ノ處理方法ヲ研究スヘキモノト考
ヘラル。

(ロ) 化粧石鹼

化粧石鹼ハ元來輸入品ニヨリ需要ヲ充サレツツアリシカ民國十五
年頃ヨリ國內ニ於テモ生産サルルニ至リタルカ工場數少ク生産額
年十萬圓見當ニシテ依然トシテ需要ノ大部分ハ輸入ニ俟チツツア
ル狀況ナリ。一ケ年ノ輸入額ハ約七、八十萬圓ナレトモ年々増加
ノ傾向ニアリ。國內工場ハ主要原料タル椰子油、松脂、香料等ヲ
外國ヨリ輸入スル爲採算關係ハ洗濯石鹼ニ比シ非常ニ不利ナレト
モ國民ノ嗜好ヲ考慮シ安價ニ供給セント努力シツツアル爲ニ日本
品ノ激増ニ壓サレナカラモ經營ヲ持續シツツアル現狀ナリ。故ニ
化粧石鹼製造業ヲ保護スルニハ最少限度現行稅率（從價三〇%）
ヲ確守スルノ要アリ。

第二 生産狀況

洗濯石鹼、化粧石鹼製造ノ主要工場ハ次ノ如シ

工場名	生産品名	工場所在地
同和工廠	洗濯石鹼、蠟燭	奉天末廣町
眞光胰莊		奉天南大門外
新中國造胰廠	洗濯石鹼、化粧石鹼	奉天城內小北門裡
盛記工廠	洗濯石鹼、蠟燭	新京西四道街
冷信號合資會社	化粧石鹼	新京入船町
同發成胰蠟工廠	洗濯石鹼、化粧石鹼、蠟燭	哈爾濱八站承德街
百弟肥皂公司	化粧石鹼	哈爾濱道外保障街

生産數量及價額

康德元年	數量		價額
	洗濯石鹼	化粧石鹼	
	六〇萬貫	一〇萬打	四五萬圓
			八、七萬圓

臨時産業調査局ノ工場調査ヲ基準トシ附屬地ニアル工場ノ生産額ヲ推定加算セルモノナリ。

康德二年度ノ生産額ニ付テハ據ルヘキ資料ナキモ康德元年度ニ比シ洗濯石鹼ハ約七〇%、化粧石鹼ハ約三〇%ノ生産減ト推定サル。

第三 輸入狀況

前流ノ如ク本邦ニ於ケル石鹼ノ生産額ハ僅少ナルヲ以テ年々多量ノモノヲ輸入シツツアリ。

一九三三年以降ノ全滿輸入高ヲ示セハ左表ノ通りテアル。

年次	總輸入額 國幣圓	日本ヨリノ輸入額		中華民國ヨリノ輸入額	
		額	總額ニ對スル%	額	總額ニ對スル%
一九三二年	九九四九八〇	一一三〇二二	一一%	八五、三三六	七四%
一九三三年	三八六六七〇	三一、二八二	八一%	三一、七四一	八%
一九三四年	八九、四〇二	五七、二三七	六四%	二八、四五一	三二%

化粧石鹼輸入高

年	總輸入高 國幣圓	日本ヨリノ輸入額		中華民國ヨリノ輸入額	
		價額	總額ニ對スル%	價額	總額ニ對スル%
一九三二年	九九四七八〇	八二、一〇五	八三%	一〇九、三五二	一一%
一九三三年	一一八五六〇七	一一三〇、八九九	九五%	二二、九八四	二%
一九三四年	一一三〇、一五二	一〇七八八一三	九五%	一八七二三	二%

備考 財政部貿易年報ニ據ル

以上ハ關東州ヲ含ム全滿洲ノ輸入額ナリ

尙康德元年度（一九三四年）ニ於ケル關東州ヲ除ケル純滿洲國ノ輸入高ハ左表ノ通りナリ。

康德元年

洗濯石鹼	七八萬圓
化粧石鹼	七八萬八千圓

備考 大連稅關統計課ノ資料ニヨル

日本側ヨリ之ヲ觀レハ昭和七年以降ノ對滿洲國輸出額（關東州ヲ含マズ）ハ左ノ如シ

年	化粧石鹼		洗濯石鹼	
	數量	價額	數量	價額
昭和七年	二一五千打	一六二千圓	七九〇百斤	一二千圓
昭和八年	六四七	四九一	一〇、五四二	一五九
昭和九年	六六八	五三六		

備考 日本大藏省貿易年報

右表ニヨリ明カナル如ク日本ノ對滿輸出額ハ滿洲國ノ成立後急激ニ増加セリ。

即チ化粧石鹼ニアリテハ昭和七年ニ比シ昭和八年ハ數量、價額トモ三倍ニ増加セリ。

洗濯石鹼ニアリテハ同期間ニ約十三倍ノ激增ヲ示セリ、之ハ昭和七年ノ第一回關稅改正ニヨリ從來一擔四・七〇金單位ノ稅率ヨリ一躍

從價一〇%ニ引キ下ケラレタル爲ナリ。

第四 國內需要狀況

康徳元年	數量		價額
	洗濯石鹼	化粧石鹼	
	一六五萬貫	九〇萬打	一二八萬圓
			八八萬圓

備考 國內生産推定額ニ輸入額ヲ加ヘタル數字ニシテ康徳元年一ケ年間ニ於ケル推定需要額ナリ。

第五 生産原價

洗濯石鹼及化粧石鹼ノ代表的工場ノ生産原價ヲ示セハ次ノ如シ。

(一) 洗濯石鹼

原料費	洗濯石鹼(100斤當リ)	Per 100斤	¥
硬化油	50% @ ¥18.50		9.25
重合油	20% @ 17.50		3.50
松脂	10% @ 14.50		1.45
其他雜油	20% @ 14.00		2.80
苛性曹達	17% @ 12.50		2.125
硫酸曹達	10% @ 8.50		0.85
			¥19.975
上記ニヨル石鹼生成歩止率			
油脂原料 100%内			
普通油脂	80% @ 14.8%		11.84
其他雜油	20% @ 1.30%		2.60
			14.44%
			100%

	硫酸曹達ヲ混合スルモノナレハ 其ノママノ重量ヲ示スヲ以テ + 10% 1544% 故ニ原料毎100斤ヲ使用スルトキハ1544斤ヲ生ス 此ノ歩止率ニヨリテ計算ス ∴ ¥ 19,975 ÷ 1544斤 -----	¥ 12.937
動力代	モーター10 ^{HP} 一台最底料金毎月 ¥ 20.00 毎月生産能力2000 [%] @ 6,000 匁 = 75,000 斤 ∴ 石鹼毎百斤ニツキ	0.027
燃料費	石炭毎月7 tons @ 10.00 ¥ 70.00 ¥ 70.00 ÷ 75,000 斤	0.094
工賃	毎月延人員450人 @ 0.45 ¥ 202.50 ¥ 202.50 ÷ 75,000 斤	0.27

10

消耗費	電燈、石油其ノ他毎月 ¥ 20.00 ¥ 20.00 ÷ 75,000 斤	0.027
修理費	毎月額平均 ¥ 40.00 ÷ 75,000 斤	0.054
家賃	毎月 ¥ 75.00 ÷ 75,000 斤	0.094
事務費	毎月 ¥ 300.00 ¥ 300.00 ÷ 75,000 斤	0.400
技師費	毎月 ¥ 140.00 ¥ 140.00 ÷ 75,000 斤	0.186
廣告費	毎月 ¥ 20.00 ¥ 20.00 ÷ 75,000 斤	0.027

11

G-27

税金公費	毎月 ¥ 20,000	
	¥ 20,000 ÷ 7,5000斤	0.27
固定資本銷却	¥ 10,000	
	¥ 10,000 ÷ 7,5000斤	0.135
包装費	木箱、針金、釘、配達馬車等每箱 (5,000匁)ニ付キ0.440ヲ要ス。 每百斤當リ	1.066
	石鹼每100斤當リ原價	¥ 1.5346

12.

G-27

備考

右生産原價一五圓三四錢六厘ハ該工場ノ最モ高キ生産原價ヲ示シ原料ノ配合、歩止率、原料ノ價格ニ於テ充分餘裕ヲ見テ割高ニ計上シアルコト及營業費、工資、消耗費、修理費、事務費、廣告費等モ最大率ヲ示セル爲ニ餘裕アリ、依ツテ實際原價ハ右ヨリ一、二割安ク百斤當リ一三圓八〇錢乃至一二圓二七錢見當ナリ。

當工場ハ奉天ニアル日本人經營ノ工場ニシテ洗濯石鹼製造ノ外蠟燭製造ヲ兼業シ尙礮化油ヲ輸入シ全滿ノ石鹼工場ニ販賣シツツアリ。康徳二年末ハ洗濯石鹼ハ採算不利ノ爲製造ヲ中止シ専ラ蠟燭製造ヲ行ヒ居レリ。

13.

(二) 化粧石鹼

化粧石鹼 10打(30斤)當リ

原 料	牛油	70%	@ ¥ 5.50	Per / 布度 (27.5斤)	¥ 4.223
	椰子油	15%	@ ¥ 29.00	/ 100斤	¥ 1.305
	曹達	15%	@ ¥ 14.00	/ 100斤	¥ 0.630
	香料	10	封度 @ ¥ 8.00	/ 封度	¥ 0.800
					¥ 6.958
石鹼生成歩止率ヲ130%トスレハ					
油脂原料 85% @ 130%					110.5%
曹達ハ其ノママノ重量ヲ示スヲ以テ + 15%					
					125.5%
コノ歩止率ニヨリ計算スレハ					
¥ 6.958 ÷ 125.5 = ¥ 5.542					¥ 5.542

1/4

職 工 賃	毎月支給額 ¥126 月生産高 1330打 ¥ 126 ÷ 133	¥ 0.947
燃 料	石炭、薪 毎月 ¥77.66 ¥ 77.66 ÷ 133	¥ 0.584
電 力 代	毎月使用量 112.5 KWH 単價 ¥0.12 ¥ 13.50 ÷ 133	¥ 0.101
事 務 費	毎月 ¥46.00 ¥ 46.00 ÷ 133	¥ 0.346
諸税、公課	毎月平均 ¥29.213 ¥ 29.213 ÷ 133	¥ 0.219
家 賃	毎月 ¥10000 ¥ 10000 ÷ 133	¥ 0.707

1/5

G-27

包裝費	包裝紙、函代 一打ニツキ 2005	円	0300
		合計	円 8746

備考

右ハ哈爾濱ニ於ケル滿人經營工場ノ生産原價ヲ示スモノナルカ原料油脂及香料ノ配合ハ正確ナル數字不明ナリシ爲推定計算セルモノナリ。

第六 原料關係

化粧石鹼ノ主要原料タル牛脂ハ國産品ヲ使用シ得ルカ其ノ産額不詳ナルモ化粧石鹼ノ原料トシテハ充分ナリ。
但シ濠洲産ノ牛脂ニ比シ品質悪シ。
洗濯石鹼ノ原料トシテハ國産ノ豆油ヲ使用シ得ルモ近年價格暴騰ノ爲日本ヨリ硬化油（魚油）ヲ輸入シツツアリ。
椰子油、松脂、香料、曹達等ハ全部輸入品ナリ。

第七 國産品市價

(1) 洗濯石鹼 百斤 一二圓 （奉天市價）

(ロ)化粧石鹼

奉天			哈爾濱		
九菊牌	一打	一〇〇	白容霜牌	一打	一〇〇
花美人牌	一打	二五	木林花牌	一打	三〇
多蝠皂	一打	〇〇	白玉霜	一打	〇六
前門皂	一打	三〇			

第八 輸入品市價 (奉天相場)

市價	洗滌石鹼
ハープ	一函 (六貫入) 四圓四十錢 (百斤當り換算)
レコード	一函 (六貫入) 四圓四十錢 (百斤當り換算)

化粧石鹼

ガイクトリヤ	一打	一圓五十三錢
花露精	一打	一圓四十三錢
牛牌石鹼	一打	一圓四十三錢
蜂窩石鹼	一打	九十八錢

第九 結論

前記ノ諸點ヨリ觀察シテ本邦ニ於ケル石鹼製造業ハ輸入品ニ壓迫セラレ經營甚タ不振ノ状態ナリ。

化粧石鹼製造ハ從價三〇%ノ輸入關稅ニ保護セラレ漸ク輸入品ニ對抗シ餘命ヲ保チツツアル狀況ナルカ一朝現行率ヲ引キ下ケルカ如キコトアレハ直チニ經營困難トナリ製造中止ノ止ムナキニ至ルヘシ化粧石鹼製造業者ヲ保護スルニハ最小限度現行稅率ヲ固守セネハ不可能ナリ。

洗滌石鹼製造業者ハ既ニ日本品ノ進出ニ抗シ得ス康徳元年下半年頃ヨリ石鹼製造ヲ中止スル者簇出シ現在ニ於テハ大半ハ休業ノ状態

ナリ。石鹼製造業者ハ多クハ蠟燭製造ヲ兼業スルヲ以テ之ヨリ生スル利益ニヨリ生計ヲ營ミツツアル現狀ナリ。

此ノ原因ハ

- 一、日本品ニ比シ生産原價遙カニ高キコト
- 一、製品ヨリモ原料ノ輸入關稅高キコト
- 一、等ニ基因スルモノト考ヘラル。

日本品ノ生産原價低キコトハ主要原料トシテ大量ニ産スル魚油ノ硬化油ヲ使用スル様ニナリタルコト。及硬化油製造會社カ直接洗濯石鹼ノ製造ヲ創メ大量生産ヲ爲スト同時ニ副産物トシテ生スルグリセリンヲ高價ニ販賣シ得ル爲ニ石鹼ノ生産原價ヲ切り下ケ得ルニ至ツタコト等カ主タル原因ナリ。

本邦ニ於テハ特産物タル大豆ヨリ製セル豆油ヲ原料ト爲シ得ルモ近年來豆油不足ノ爲ニ價格騰貴止ムヲ得ヌ日本ヨリ硬化油（魚油）ヲ輸入シツツアリ。

註 豆油百斤（大連相場）

康徳二年十月	康徳二年九月	康徳一年十月
一五・二七	一一・三〇	八・八〇

奉天同和工廠ヲ通シテ奉天、錦縣、吉林、哈爾濱地方ニ輸入サレタル硬化油ハ康徳二年度約三〇萬斤ナリ。

石鹼並ニ原料油脂、曹達類ノ輸入稅率左ノ通り

品名	單位	稅率
洗濯石鹼	從價	一〇%
硬化油	從價	一二%
重合油	從價	一二%
苛性曹達	一擔	二・九三
硅酸曹達	從價	一・九五
松脂	從價	二・七三
其ノ他油脂	從價	一二%
椰子油	一擔	五・二七
曹達灰	從價	一・五〇

右表ニヨリ明カナル如ク製品ノ輸入税ハ原料ノ輸入税ヨリモ遙カニ
 低キヲ以テ國産品カ輸入品ニ壓倒セラルルニ至ツタコトハ當然ノコ
 トト考ヘラル。
 故ニ國內業者ヲ蘇生セシムルニハ洗濯石鹼ノ輸入税ヲ從價二〇%ニ
 改正スルヲ要ス。

一、關稅沿革 附 錄

五〇〇	四九九	稅 番 品 名	第二次改正 (一九三四年一月施行)	第一次改正 (一九三三年七月施行)	國定輸入税輸入税金建制 (一九三〇年一月施行)	七種差等稅 (一九二九年二月施行)
化粧用石鹼	家庭用及洗濯用石鹼 (青色斑入モノヲ含ム)		從價 一〇% 國幣圓	一〇% 國幣圓	擔 四七〇 金單位	金單位 一七三
			三〇%	三〇%	三〇%	一〇%
						海關兩 〇九九

海關兩對金單位及金單位對國幣圓比率

- 一 海關兩
- 一 金單位
- 一七五金單位
- 一九五國幣圓

二、日本ニ於ケル石鹼ノ生産及輸出状況

生産状況

(1) 生産額

石鹼生産高 (單位圓)

	化粧石鹼	工業用石鹼	薬用石鹼	洗濯石鹼	粉石鹼	計(其他共)
昭四	二六六九〇八六五	二二七〇一五六	五九三九	一〇一九九七四二	六七五七一三八	三六九四六六二〇
五	一八五八四四三三	二八六三九五六	三九七二五一	一〇〇九八五五三	六八三三三三九	三六三六二二九一
六	一七三四六一一〇	二四八〇〇八九	一七三三四〇	九三三三三四三	二一八三八一九	二九六〇〇八七二
七	一六一六四六六七	二四三〇〇八六	二六八九五八	八三八九五〇四	二六四三〇四〇	三三三三三三三三
八	二六二四三八五三	二五三三二二四	一九四二八四	九三三八三九六	二九九九七一〇	三六三三三三三三

備考 工業統計表ニヨル。

生産額ノ主要ナルモノハ化粧石鹼、洗濯石鹼、工業用石鹼ニシテ最近ニ於テハ粉石鹼ノ生産増加著シキモノアリ。

商工省工務局ノ調査ニヨレハ、昭和八年七月ヨリ昭和九年六月ニ至ル期間東京、京都、大阪、兵庫ノ三府一縣ニ於ケル生産額ハ三七、四六七千餘圓ニシテ昭和七年一八年同期ト比較スレハ約五、六一二千餘圓ノ激増ナリ。

上掲府縣ノ總生産額ニ對スル百分率ヲ見レハ東京五八%三、大阪二八%九ニシテ東京、大阪ノ二地方ニ於テ總額ノ八七%ニテ生産ス。

昭和八年一九年度ニ於ケル増産ハ主トシテ化粧石鹼ノ自然需要増加ニ伴フモノト輸出品ノ増大ニヨルモノニシテ、洗濯石鹼ハ大阪府ニ於テ減産ヲ見タルニ反シ、兵庫縣ニ於テハ増産アリ、京都府ニ於ケル工業用石鹼ハ軍需工業並ニ纖維工業ノ盛況ト共ニ生産増加ヲ來タセリ。

(ロ) 生産規模

商工省工場統計表ニヨレハ石鹼及化粧料製造業者ノ生産規模次ノ如シ

工業用	化粧用石鹼工場	工場數	従業員總數		其ノ他
			内 譯		
			職 員	工 人	
			女	男	
			二、〇七二	二、五六七	
			計一、〇七八	計五、五四〇	
			五一	二、九七三	一八四
					七九
					二六

藥用石鹼工場	一四
洗濯	一〇七
粉	七二
其他	二七
計	三二五
工場ノ地方的分布	
大阪	九七
東京	九一
北海道	二三
愛知	二二
兵庫	一九
福岡	一三
廣島	一二
京都	一一

斯業ノ操業狀況ハ最近極メテ良好ニシテ京都府ニ於テハ全能力操業ヲ
 ナシ大阪府九〇・一八〇%、兵庫縣八〇%、東京府八〇%ノ平均操業率
 ヲ示シ居ルニ拘ラス小工場ノ中ニハ閉鎖セルモノヲ生セリ。
 内外需要ノ増進ト共ニ生産品ハ比較的好調ヲ以テ消化セラレ化粧用並
 ニ工業用等ノ需要特ニ増大シツツアリ。
 主要生産業者次ノ如シ

- ライオン石鹼株式會社 東京市本所區
- 合同油脂株式會社 東京市王子區
- 株式會社資生堂 東京市向島區
- 丸見屋商店
- 株式會社長瀬商會
- 日本石鹼株式會社 大阪市東成區
- ベルベツト石鹼株式會社 兵庫縣武庫郡

(一) 生産業者ノ損益狀況

昭和八、九年度ニ於テハ原料ノ値下リ、需要ノ増加共ニ生産者ニ好條件ヲ齎ラシ收益ハ増加シツツアリ。

(二) 原料需給狀況

石鹼生産ニ要スル油脂量ハ大約五萬噸即チ牛脂約一四、〇〇〇噸、硬化油約二〇、〇〇〇噸、椰子油六、〇〇〇噸、蝸油、諸植物油、樹脂等一〇、〇〇〇噸ノ割合ニシテ椰子油以外ノ植物油トシテハ大豆油及棉實油ヲ主タルモノトス。之等ノ油脂中、國産硬化油ノ他ハ何レモ大部分ハ油脂トシテ又ハ原料トシテ輸入サル。尙ホ硬化油ノ原料トシテ内國産魚油ヲ用ヒ大豆油ハ極メテ少量ヲ用フルニ過キス。他ノ原料タル苛性曹達ノ需給ニツキテハ國內曹達工業ノ發達ト共ニ苛性曹達ノ生産高ハ過去四ヶ年間に於テ約三倍ノ激増ヲ示シ輸入高ハ激減シ、而モ昭和七年以來海外輸出モ現ハレ漸次増加ノ傾向ニアリ。

昭和九年ニ於テハ遂ニ自給自足ノ域ヲ超エテ海外輸出方面ニ意ヲ注クニ至レリ。

苛性曹達需給表

(單位噸)

昭和五年	六年	七年	八年	九年	生産高	輸入高	輸出高
三二、八六四	四四、七八二	七一、三二七	一〇六、八七五	一六五、四二八	三七、五八九	四一、五九五	一一
					二八、一九三	一二、四七七	三、二二九
					九、九二八	五、一一六	一、二二九三

備考 東京商工會議所編「商工年鑑昭和十年版」ニヨル。

輸出狀況

(イ) 主要國別輸出額

海外販路トシテハ殆ト東洋方面ニ限ラレ、印度南洋方面ニハ多少ノ取引アルモ歐米品ノ根強キ地盤ノタメニ開拓未タ思ハシカラス。

石鹼輸出國別表 (單位圓)

國名	昭和八年	昭和九年
滿洲國	六五一、〇一四	七八三、一六四
中華民國	一八〇、六〇〇	三四五、七七七
關東州	五五五、九七四	六七九、六八三
香港	五八、三四三	九四九、九四

國別	昭和八年	昭和九年
英領印度	八三七、〇二九	四六九、六七九
蘭領印度	四八六、四二八	三一六、九一五
計(其他共)	三、二〇三、三一	三、五四一、二四一

備考 「東洋經濟年鑑」ニヨル

主要販路ハ最近ニ於テ大ナル變化ナク滿洲、關東州、英領印度、蘭領印度、支那等ニシテ、海峽殖民地並ニ「シヤム」等ニ於テハ最近需要増加キ顯著ナルモノアリ。

(ロ) 輸出額ト生産額トノ割合(昭和八年)

生産額 三七、六九一、千圓
 輸出額 三、二〇三、千圓
 割合 八%四九

(一) 總輸出額ト對滿輸出額トノ割合 (昭和九年)

總輸出額	三、五四一千圓
對滿洲國輸出額	七八二千圓
割合	二二%
對滿洲國及關東州輸出額	一、一二七千圓
割合	三一%

(二) 輸出品ノ特徴

滿洲向製品ハ化粧石鹼及洗濯石鹼ニ限ラレ、化粧石鹼ハ著名ナルモノヲ擧クレハ邦人向トシテ「花王」「ミツワ」「クラブ」「資生堂」「ベルベット」等内地ニ於テ最モヨク知ラレ居ルモノニシテ、滿人向トシテハ上流階級ハ前述ノ製品ヲ需要スル外一般的ニハ大阪製ノ下級品ニ限ラレ居レリ。從來滿洲人ノ需要ハ洗濯石鹼ニ限ラレ從ツテ滿洲ニ於テ需要サレル石鹼ノ大部分ハ洗濯石鹼ニ限ラレ居リシニ、近來邦人ノ移住増加、滿洲人ノ生活程度向上ニツレ化粧石鹼ノ需要激増

シ日本製品盛ニ輸出サルルニ至レリ。

輸出價格

	昭和十年九月	昭和九年	昭和八年
化粧用 (打)	〇・圓六九	〇・圓六七	〇・圓七〇
其ノ他 (一〇〇斤)	一一・七一	一三・五五	一五・八一

備考 外國貿易月表ニヨル算出數字

以上